

3 言葉・作品から探ろう！

高田はたくさんの人の肖像彫刻をつくった。
しかし、見た人からは「似ていない」と度々言われたそうだ。
肖像を依頼した本人が気に入らず、突き返されたこともある。
そこで高田は言った。

“ 人間の顔の表面は年とともに変わるが、一生のものは変わらない。
本当をいうと、現在のあなたが私の作った像に似てこないといけないのだ。 ”

5 この言葉には、高田の作品制作に対するどのような思いが込められているのだろう？

6 高田博厚の目に映るものをいろんな視点から探ってきたね。
高田は、生涯をかけて何を探った人だろう？

キャッチフレーズ 高田博厚は…

福井市美術館にある主な肖像
代表作

岩波茂雄(いわなみしげお) 梅原龍三郎(うめはらりゅうざぶろう) 萩原朔太郎(はぎわらさくたろう) 佐藤春夫(さとうはるお) 室町漫子(むろまちすみこ)
西田幾多郎(にしだきたろう) マルセル・マルチネ ポール・シニャック イザベル・ルオー ジャン・コクトー

福井県にゆかりのある彫刻家
高田博厚の★
えらべる
鑑賞シート

これにきめた！
なまえ
名前

たか た ひろ あつ
高田博厚
と福井

目に映るものは…

たか た ひろ あつ
高田博厚 (1900-1987) は、人物彫刻を数多く残した彫刻家です。
それだけではなく、文筆家、思想家としても活躍しました。
そんな彼の人格形成に大きく影響したのが、2歳から18歳までの福井での生活。
彼はこの地で、精神の土台を作り上げたのです。
また、30歳で渡仏し、57歳で帰国した後は、展覧会や講演会活動を通して福井の文化向上に貢献したという点でも、福井とゆかりがあります。

たか た こうりゅう
高田は交流のあった人物だけでなく、
実際には顔を合わせたことのない人物も制作しました。
高田が人物彫刻に込める思いとは、一体何だったのでしょうか。
また、それを表すに至るまでの長い年月の中で、何を見てきたのでしょうか。
三つの視点から高田の生涯を紐解き、彼の目に映るものを探っていきましょう。



「カテドラル」セメント・1937年 「遠望(えんぼう)」ブロンズ・1981年

このワークシートのつかいかた

資料コーナー

ページ上部は、高田博厚の青少年時代、交友、言葉・作品の三つの視点から、彼の生き方を探っていきます。
高田の人生を、ワクワクしながらたどってみよう。

考えるコーナー

ページ下部は、高田博厚の人生や思想について考えるコーナーです。
上部の資料を見て、あなたなりに想像をふくらませてみよう！
そこから、高田の目に映るものを探っていこう。

1

1 福井での青少年時代から探ろう！



2

2 交友から探ろう！



1

1 高田は青少年時代、どんなことに興味があったのだろう？

（ここに回答文を記入する）

3

3 高田はどんな人と出会い、どんなことを語り合い、どんな時間を過ごしたのだろう？

（ここに回答文を記入する）

4

4 高田にとって、様々な方面で活躍する知識人と交流することはどのような意味があったのだろう？

（ここに回答文を記入する）